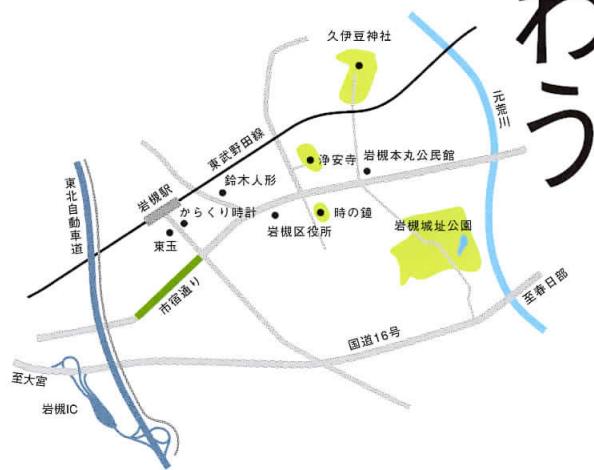


特集・城下町に暮らす人々に出会いました

岩槻で旅情を味わう



岩槻城址公園の菖蒲池に架かる「ハツ橋」。



岩槻観光ボランティアガイド会の皆さん。

市民が観光ガイドでおもてなし

ボランティアで観光ガイドを行なう市民がいます。その名も『岩槻観光ボランティアガイド会』の皆さん。「岩槻を訪れた人に、歴史に彩られた伝統や文化の薫るまちを十分楽しんでもらいたい」と、おもてなしの心で案内しています。

黒門を過ぎて、ゆるやかな坂道を下っていくと、やがて朱塗りの「ハツ橋」が印象的な菖蒲池が見えます。春には約800本の桜が咲き誇り、夏には菖蒲、秋には紅葉と、四季を通じて美しい景色が人々を魅了します。

岩槻駅から歩いて約25分のところに豊かな緑に囲まれた「岩槻城址公園」があります。ここは昔、岩槻城の城郭があつた場所。今では多くの人々が憩いを求めて訪れます。

室町時代の後半に築城されたといわれる岩槻城は、江戸時代には江戸北方の守りの要として幕府要職の譜代大名の居城となりました。明治6年に廃城となり、今は残念ながら城の姿を見ることはできませんが、園内に移設された岩槻城門（黒門）と裏門、残された土壘、空堀などから、約400年続いた岩槻城の面影をたどることができます。

岩槻を歩いていると、江戸時代のまちなみを思わせる小さな発見があります。「江戸小路」「大手口」などの旧跡標柱、郷土にまつわる名所や史跡が描かれた歩道の敷石、地場産業の人形をあしらった街灯やガードレール…。ここで暮らす人々がまちの歴史を愛し、暮らしを楽しむ気持ちが伝わってきます。

1671年に城主の阿部正春が設置した岩槻城の鐘楼「時の鐘」。
その音色は9里離れた江戸の地まで聞こえたとか。（岩槻駅より徒歩約12分）



三の丸内の城主居宅の構えの門だといわれている「岩槻城城門（黒門）」。廃城後は、埼玉県庁や県知事公舎の正門としても利用された。（岩槻城址公園内）



芝生が一面に広がる「ピクニック広場」とアスレチックや遊具で遊べる「わんぱく広場」があり、子どもも元気に遊べます。（岩槻城址公園内）

